

# 中山間地域の耕作放棄地を救え 杜仲の森で地域も人も元気モリモリ

神奈川県立吉田島高等学校 環境緑地科1年次 教科「農業と環境」21名

## 1 みどり戦略との関連性（背景）

生産者の減少・高齢化が著しい中山間地域の振興に、狭小圃場や傾斜地の特性を活かした粗放的で大面積管理の可能な特用林産物の生産と高付加価値な商品開発で挑戦する。



## 2 (有)碧山園との共同研究のきっかけ



(有)碧山園  
神奈川県北部愛川町にて耕作放棄地を活用無農薬有機栽培で薬木杜仲(トチュウ)を栽培特殊製法による杜仲抹茶は高い機能性と薬効日本の強い新産業創出を中山間地域から目指す  
**【課題】**  
①規模拡大に苗必要→難発芽種子→苗木は高額  
②白紋羽病→更新が必要→病害に強い栽培方法必要  
**吉田島高校との共同研究**  
発芽方法の検討  
苗木増産技術の検討  
病害に強い栽培方法の検討  
教内プロジェクト学習で研究「農業と環境」「森林科学」「林産物利用」「森林経営」

## 3 研究経過一令和2年



## 4 目的

表1〈栽培歴〉これまでの試験は春植えで以下の栽培歴で実施した（表1）

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
春植え	種子採取 ☆△	種子保存		△播種 ○	育苗箱 ●		直根苗 □	植栽 ★				
秋冬植え		△			種子保存 ★			△○播種 ○育苗箱 ●直根苗				

春植えは成長は良好だが、植林の適期が短い。  
秋冬が実施可能であれば、植林の適期は長い。

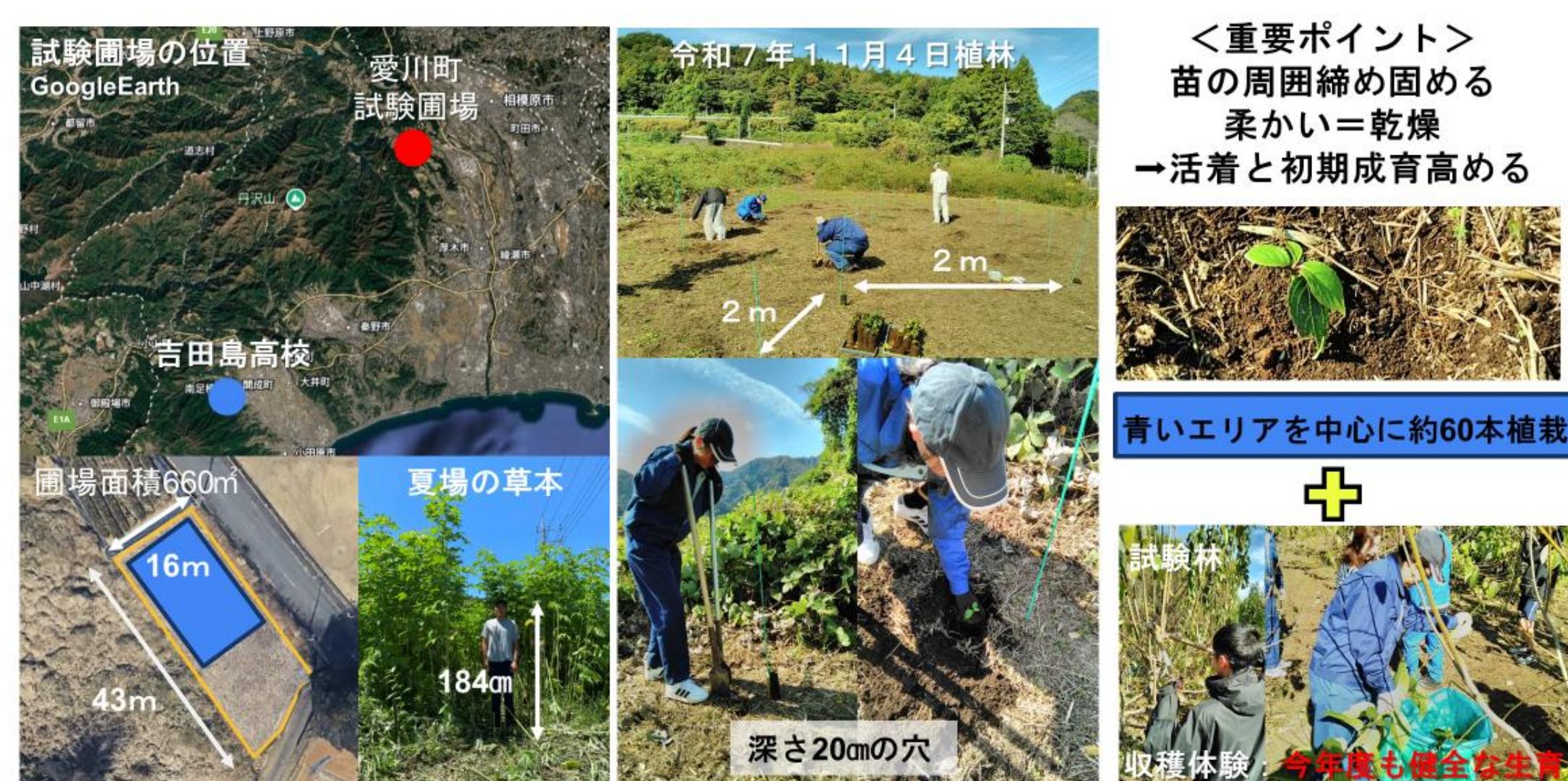
秋冬植えを実施し、生育状況を比較検討することを目的とする。

## 5 取り組み内容一播種～育苗

播種から育苗の工程はこれまでの研究と同様に取り組んだ。試験圃場では慣行栽培で用いるポット苗ではなく、直根苗を使用してきた。令和3年植林前の予備実験（下の写真）から、直根苗を使用した場合の根系成長について仮説を立て、本実験に用いている。



## 6 結果一秋冬植えの実施と収穫体験



## 7 考察とまとめ・展望

### ＜考察とまとめ＞

11/4に植林した苗は、そのまま落葉し、翌春に成長を開始し、春植えと同様の生育をするのではないかと予測している。生育調査を4月から2ヶ月おきに実施し、令和3年に植林したデータと比較検討していく。

### ＜展望＞

秋冬植えが可能になれば、植林適期が大幅に広がり、トチュウ茶葉生産の大規模化と産地形成に直接的な効果を發揮する。

今回の植林では、本校や(有)壁山園の取り組みに興味を持って頂いた一般社団法人さがみ湖森・モノづくり研究所の皆様も活動した。今後も研究活動と合わせ、普及活動を継続していきたい。

